

コロナ禍で知った税の大切さ

浦幌町立上浦幌中学校3年 平田 小雪

今年、大流行している新型コロナウイルスの影響で、消毒液やマスクが品薄になり、それが引き金となりいろいろなデマが流れ、ティッシュやトイレットペーパーの買い占めが起きました。インターネットでは消毒液やマスクが法外な値段で取り引きされ、社会問題になりました。

国は国民の不安からの買い占めや法外な値段での取り引きを防ぐため、対策をとりました。ペーパー類は在庫がたくさんあり、なくなることはないと発表し、酒造会社にアルコール度数の高いお酒を製造し消毒液用に販売するよう要請しました。

また、何度も洗って使えるマスクも配布し、コロナ禍で失業した人や収入が減少した人のために国民全員に一人十万円という特別給付金も支給されました。コロナ禍で多くの国民が困っている時に国が一人十万円を支給してくれるのはとてもいい事だと思いましたが、資金はいったい誰がどこから出しているのだろうという疑問が生まれました。

そんな時、社会の授業で租税教室が行なわれ、公認会計士さんから税について学びました。

租税教室で一番心に残った言葉は「税は取られるものではなく、国民一人一人が豊かに暮らすためにみんなで出し合う会費」という言葉でした。今まで税は何のために払うのかも分からず「税なんて払わなくても生きていける」と思っていたが、学んだ後では考え方が大きく変わりました。まさに今、コロナ禍で経済が落ち込み、個人の消費も減少している時に、国が一人十万円支給したことにより個人消費も増え、うまく経済が回っているのだということを感じました。今まで払って来た会費が困った時に助けてくれる社会保障等になって返って来る、とてもいい制度だと思えました。

私は、新型コロナウイルス大流行や租税教室で税のことを改めて深く考えることができました。

日本には私のように税に対して悪い印象を持っている人がたくさんいると思います。そのような人達に税の仕組みを分かってもらい、「税は取られるものではなく国民一人一人が豊かに暮らすためにみんなで出し合う会費」なのだという事を理解してもらい、税を嫌々払うのではなく納得して気持ち良く払ってもらえるようになってほしいと思っています。

税の仕組みはもちろんですが、税の使い方を決める国の方針等にも目を向けて、税が生活に困っている人や支援を求めている人に確実に届く社会になるように、国民一人一人が気持ち良く「会費」を出し合って国を支えていける大人になりたいです。